

## Nami-Aru? / Internet

「Learn to fucking swim」

文：ジョージ・カックル

水泳はサーフィンには重要なスキルだ。でもパワーコードができてから、泳げないサーファーがすごく増えたんじゃないだろうか？ これでいいのか？

俺が初めてサーフィンをしたのはLAだった。まだ中学生だったある年の夏休み、父の友だちの家に、家族全員で居候していたことがあったんだ。で、両親は、これから住むことになっている韓国へひと足早く行ってしまい、俺たち兄弟二人は後に残された。きっと邪魔だったんだろうね。俺たちは、子ども用のサーフ・キャンプに入れられたんだ。毎朝、サーファーのおやじがボードをたくさん上に乗せたワンボックス・カーでいろんな家に行って子どもたちをピックアップして回った。それから、海に行き、午後に戻るという風なスケジュールだった。それでお金もらっているんだよね。

1日目はテスト。海に着いたら板に乗せてくれる前に、100メートル沖に泳いで、それから横に100メートル、そして、岸に向かって100メートル泳ぐんだ。それができない子どもたちは浜で砂遊びしかやらせてもらえなかった。泳げるまでサーフィンはやらせてくれないんだ。

もちろん、その頃はまだパワーコードなんかなかった。よく板を流しちゃったし、そうなる泳ぐしかないから、すぐうまくなるよ。それか、溺れるだけ……。

でも今は、泳げなくてもサーフィンしている人がいるよね。昔ほどではないけど、パワーコードは切れるときもある。抜けるときもある、外れるときもある。そして、ちゃんとはめるのを忘れることもある。アメリカ人とサーフィンすると、時々遊びでこっそりはずしたりするんだけどね。そんなとき、泳げなかったら危ない。誰も泳げないなんて思っていないね。

波に乗るって行為は基本的に同じだ。頭のサイズの波が乗れば、ダブル以上の波も乗れる。考えてごらん、怖いのは波のサイズじゃない。その波に巻かれたとき、息を止められるか、そこで板をなくしても泳げるかだね。乗るのは問題じゃない。泳げるかだ。波が大きいほど、沖で割れる。大きいほど流れが強い。その流れに負けないぐらい、泳ぎに自信が必要だ。

そして、ヒントをひとつ、板を流してあがるとき、上を見ながら泳いだほうがいい。そうすれば、波やサーファーが乗ってきてもわかるからね。波が通り過ぎたら、クロール、また次の波を待つんだったら、上を向こう。それに人間の身体は基本的浮くんだ。パニックしなければね。

だから、水泳を練習しよう。プールでも海でも、泳いで、息を止めて、潜って、泳いで。